

岐阜県立岐阜高等学校で防災講座を行いました

令和8年7月13日（月）、岐阜県立岐阜高等学校で1年生の防災委員17名に防災講座を行いました。学校のすぐ近くには長良川が流れています。この学校での講座は今年で4回目です。

講座では、岐阜市でも被害があった伊勢湾台風を始め、今年で50年の節目を迎える9.12豪雨災害、東海豪雨など過去の水害や線状降水帯、新たな防災気象情報について学習しました。9.12豪雨災害の際には学校の周りも浸水しています。

また、VRによる浸水疑似体験や伊勢湾台風A I 語り部との対話体験、水防災A I カードクイズを行い、VR体験を通して、生徒からは「早く避難することが身を守ることに直結すると分かった」「大丈夫と思うのではなく、まず避難することが大切だと思った」など早期避難の重要性に関する感想が多くありました。A I 語り部には岐阜市の被害や当時の浸水深などの質問をし、伊勢湾台風に関する理解を深めました。

生徒からは、「水害は思っていた以上に大変だということが分かったので、日頃から備えていきたい。」「自分はまだ災害を身近に感じたことがあまりないので、いつ避難すればいいのかなどもっと知る必要があると思った。」「岐阜高校は目の前に川があるから、気をつけたい。」などの感想がありました。

最後に、先生から生徒に向けて、「新たな防災気象情報を正しく理解し、家の近くの川を確認したり、備蓄品などを用意して、他の人も守れるようなリーダーになってほしい。」と呼びかけがありました。

今回の講座が、生徒たちの防災意識向上に繋がり、「守られる人から守る人」になって頂けることを期待しています。

